

修士論文（要旨）

2014年1月

アニメ好きな学習者へのインタビューから見るビリーフ変容

指導 堀口 純子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

212J3012

山同 丹々子

## 目次

<b>第1章</b>	<b>はじめに</b>	<b>1</b>
1.1	用語の定義	1
1.2	研究の背景	2
1.3	研究の目的	6
<b>第2章</b>	<b>先行研究</b>	<b>7</b>
2.1	学習リソース	7
2.2	ビリーフ	7
2.3	アニメ授業実践報告	10
<b>第3章</b>	<b>調査概要</b>	<b>12</b>
3.1	調査協力者	12
3.2	調査方法	13
3.3	分析方法	14
<b>第4章</b>	<b>各個人のデータ分析</b>	<b>16</b>
4.1	CF1 の分析	17
4.2	CF2 の分析	23
4.3	CF3 の分析	31
4.4	CM1 の分析	39
4.5	CM2 の分析	44
4.6	CM3 の分析	50
<b>第5章</b>	<b>データ分析結果</b>	<b>56</b>
5.1	視聴媒体とアニメへの興味要因	56
5.2	学習リソースとしてのアニメ	57
5.3	アニメ視聴に対するビリーフ	59
5.4	各個人のビリーフ変容と考察	67
5.5	調査協力者のビリーフ変容	73
<b>第6章</b>	<b>総合的考察</b>	<b>74</b>
6.1	環境との相互関係	74
6.2	変容の要因	75
<b>第7章</b>	<b>まとめと今後の課題</b>	<b>78</b>
7.1	まとめ	78
7.2	日本語教育機関でのアニメ授業への示唆	78
7.2	今後の課題	79

参考文献

添付資料：本研究の文字化資料

同意書

日本のサブカルチャーの一翼をなしているアニメは世界各国で人気があり、特に中国では1990年代ごろから当時幼少期にあった1980年代以降生まれの若者たち（以下80后）に浸透し、現在でも根強いファンがいるという。そのような中、稿者が勤務するA私立大学の留学生別科においても2012年3月までは、アニメ好きな80後の学習者が数多く在籍していた。そして、彼らは「授業でアニメが見たい」という要望を出してくることが多々あった。しかし、授業として使用するならば、アニメを学習リソースとして考えているのかどうか、またアニメの何について学習したいのかを知らなければ、単なる時間消化の授業になってしまうだろうと考えたことが本研究の動機である。

そこで、本研究は、アニメ好きな中国人学習者へのインタビューを通して、アニメを学習リソースとして捉えているか否か、アニメ視聴に対してどのようなビリーフを持っているか、そのビリーフに変容があるか否かを来日前、日本語教育機関在学中、現在と時系列に見ていった。そして、それぞれの時系列における学習者のビリーフを明らかにし、考察した後、日本語教育機関におけるアニメを使用した授業への示唆を得ることを目的とした。

調査は日本語教育機関に通ったことがある中国の80後の学習者（調査協力時24歳～26歳）男女6人を対象に、来日前、日本語教育機関在学中、現在と時系列にアニメ視聴方法などについて、日本語で個別に半構造化インタビューを実施し、その文字化資料をデータとして分析した。分析方法は、佐藤（2008）の質的データ分析を用いた。

分析の結果から、本研究における学習者（以下学習者）は、アニメを学習リソースとして捉えていた者も、リソースとして捉えていなかった者もいることが明らかになった。またアニメ視聴に対する学習者のビリーフは、6人それぞれ違っており、来日前、日本語教育機関在学中、現在という時系列でもそれぞれ異なるビリーフを持っていた。しかし、学習者全員のビリーフは、時の変化と共に変容が見られ、この変容の点で共通していることがわかった。

考察では、学習者個人の時系列毎のアニメ視聴に対するビリーフを考察した。来日前、学習者は簡単な日常会話ができる、定型的な挨拶用語が勉強できるといったように楽しみながら、自然に覚えらるるといった自然習得的なビリーフを持っていた。だが、日本語学習のためにアニメで聴解の勉強ができるという強いビリーフを持っていた者もいた。日本語教育機関在学中は、学校以外のアルバイト先で聞いた語彙や表現などに対する疑問を解消するために語彙の勉強ができると言った者や、生活していくためには聴解の勉強が必要だと言った者、日本にいてもあまり日本の生活のことがわからないから、日常生活が描かれたアニメがいいと言った者のようにインプット重視の傾向が見られた。このようなインプット重視の傾向をこの期間に持っている要因として、来日してからのそれぞれの環境が影響を与えているのではないだろうかと考えた。現在は、「日本の社会について日本人とディスカッションがしたい」、「日本人学生とのインターアクションを通して、アニメを分析し、社会背景や作者の意図などを知りたい」といったようにそのビリーフは変容しており、アウトプット重視の傾向を持っていた。このような傾向が見られた要因として、大学や大学院、アルバイト先などでの日本人との頻繁な接触に影響を受けたことが、考えられる。

以上のことから、総合的考察として、来日前から現在に至るまでの物的リソースや人的リソースが学習者に影響を与え、学習者を中心にその環境とアニメに対するビリーフ、アニメの機能の使い方が相互に作用をしているという考えに至った。そして、学習者のビリーフ

ーフは、学習者の日本語能力や情意面の変化、環境の変化、時間の変化と共に変容を見せていると言えるだろう。

本研究から学習者個々のアニメ視聴に対するビリーフを知り得たが、実際の授業としてアニメを使用するには、来日してくる学習者の多様性、アニメ嫌いな学習者の存在、日本語教育機関における様々なカリキュラムや授業形態の存在などを考慮しなければならないと思われる。だが、本研究の学習者にとってのアニメは、情報資源になったり、時には日本の社会や歴史理解に役立つ素材になったりしていたこと、それらと同時に言語機能を伸ばす有用な学習手段となっていることが分かった。

以上の結果が、日本語教育機関におけるアニメを使用した授業への示唆になると思われる。

## 参考文献

- 板井美佐 (1997) 「言語学習についての中国人学習者の BELIEFS—上海復旦大学のアンケート調査より—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』, 12 号, pp.63-88
- 板井美佐 (2000) 「中国人学習者の日本語学習に対する BELIEFS—香港 4 大学アンケート調査から—」『日本語教育』104 号, 日本語教育学会, pp.83-104
- 尹松 (2001) 「日本語学習者のビリーフについての意識調査—中国首都師範大学の場合—」『日本語教育研究』, pp.115-129
- 遠藤誉 (2008) 『中国動漫新人類 日本のアニメと漫画が中国を動かす』, 日経 BP
- 荻野実美 (2010) 「まんがを使用した日本語教材の分析—クラス授業での使用に向けて—」『拓殖大学日本語紀要』No.20, pp.77-90
- 熊野七絵・廣利正代 (2008) 「「アニメ・マンガ」調査研究—地域事情と日本語教材」『国際交流基金日本語教育紀要』第 4 号, pp.55-69, 国際交流基金
- 熊野七絵 (2010) 「日本語学習者とアニメ・マンガ～聞き取り調査結果から見える現状とニーズ～」『広島大学留学生センター紀要』20 号, 広島大学留学生センター, pp.89-102
- 佐藤郁哉 (2008) 『質的データ分析法 原理・方法・実践』, 新曜社
- 佐藤紀美子 (2007) 「台湾人日本語学習者のビリーフス」『留学生教育』, pp.119-129
- 鈴木洋子 (2011) 「ポップカルチャーから日本語学習へ」『武蔵野大学文学部紀要』, 武蔵野大学文学部紀要編集委員会, pp.93-103,
- 田中望・斎藤里美 (1993) 『日本語教育の理論と実践』, 大修館書店
- 浜田麻里・林さと子・福永由佳・文野峯子・宮崎妙子 (2006) 「日本語学習者と学習環境の相互作用をめぐって」『日本語教育の新たな文脈—学習環境、接触場面、コミュニケーションの多様性—』国立国語研究所編, アルク, pp.67-96
- 林さと子 (2005) 「「学習環境」からみた日本語教育」『言語』34, pp.50-57
- 保坂敏子・土井真美 (2001) 「映像素材を視聴した学習活動に対する学習者からみたビリーフ—教室場面の学習活動の場合—」『小出記念日本語教育研究会論文集』9
- 保坂敏子・土井真美 (2003) 「映像素材を使った学習におけるビリーフ調査の「意味」—授業改善におけるビリーフ調査の役割—」『群馬大学留学センター論集』(1), pp.13-23
- 藤家智子 (2002) 「映像素材を用いた聴解・会話の授業について」『日本語・日本文化研究』, 京都外国語大学留学生別科, pp.41-59
- Horwitz, E.K. (1987). Surveying Student Beliefs About Language Learning. In Rubin & Wenden (eds.), *Learner Strategies in Language Learning*. Prentice Hall International (U.K), pp.119-129
- Horwitz, E.K. (1988). The beliefs about language learning of beginning university foreign language students. *Modern Language Journal*, 72(3), pp.283-294

## 参考 URL

- JETRO (2004, 2005, 2012) 「中国アニメ市場調査」調査報告  
<http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001145/report> (最終検索日 2013 年 11 月 15 日)